

三宅島の噴火（地学散歩(29)）

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 半田, 孝司 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.14945/00025523 |



写真1. 58年10月4日飛行機からみた新瀨池・新鼻付近。左の池は今は波に洗われて消失した。右の新瀨池も今は干あがって美しい亀甲模様の底をみせている。
(東大・教養学部 大島治氏 提供)



写真2. 厚く積ったスコリアにより、焼けただれた自動車。標高450mのレストハウス駐車場。



写真3 噴火口列中央付近の東側に降りつもったスコリアにより急げきな熱を受け白骨のようになった倒木。

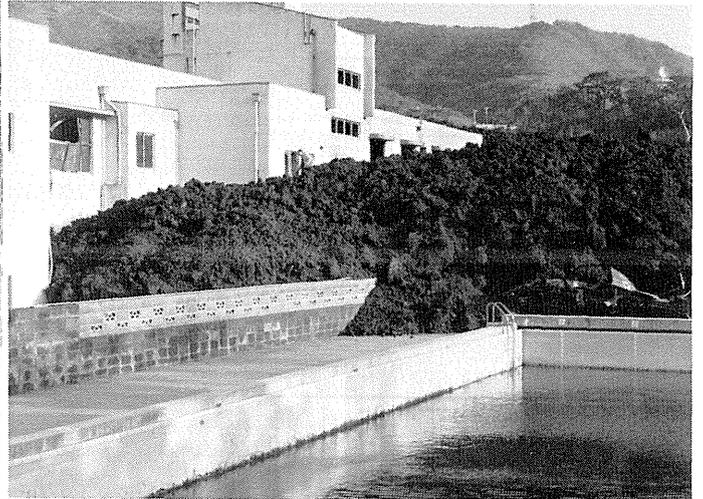


写真4 阿古中学校まで押し寄せた溶岩流の末端部。2階の教室も溶岩で埋っている。



写真5 噴火口直近に落下した火山弾。溶岩餅が多く、この様な紡錘形のものゝ極めて少ない。

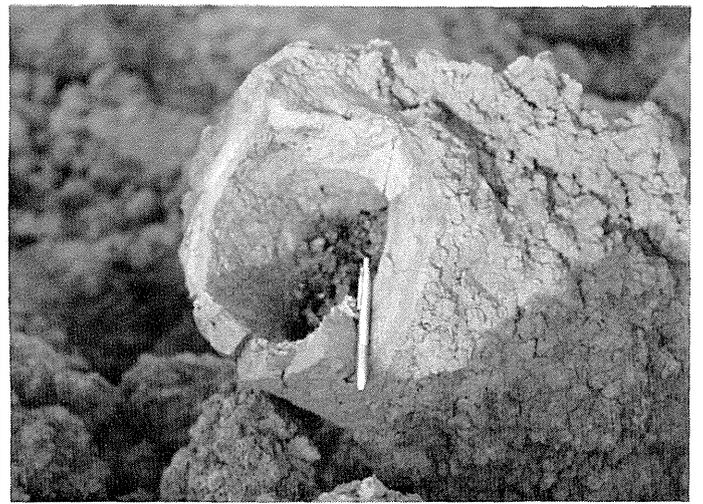


写真6 阿古集落を埋めた溶岩原にみられる溶岩樹型。樹型中心部に木炭がまっている。

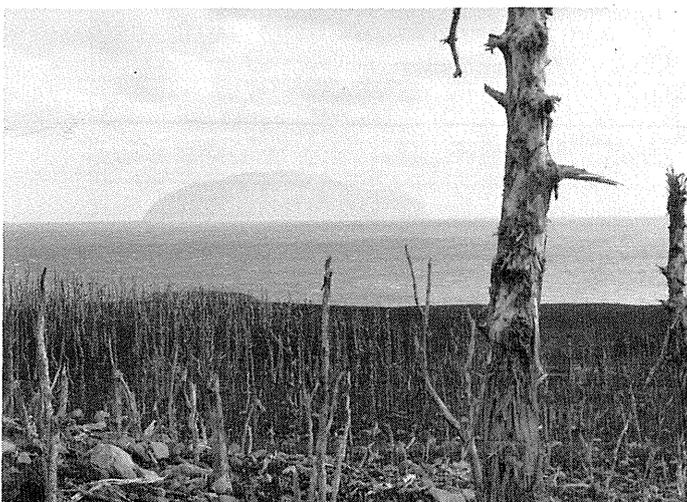


写真7 新瀨池付近に起った水蒸気爆発によって多量の噴石を受け、幹だけになった樹木。遠景は20km離れた御蔵島。



写真8 新瀨池北側に出現した水蒸気爆発口。写真の上部には粟辺に流れた溶岩流がみられる。

(59.2.14)